
空中庭師（改稿版）

ごはんライス

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

空中庭師（改稿版）

【Nコード】

N1675C

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

植木職人のスズさんこと鈴木のおっさんが、空中庭園という、ラピュタみたいに空に浮いてる庭園で仕事した時のお話です……

空中庭師（改稿版）

スズさん（前書き）

はじまり、はじまりィ

スズさん

植木屋の大将、鈴木は、東京じゃちつとは知れた、カリスマわびさび庭園マスター。どんなインチキくさい庭園、例えば、日本びいきの外人さんが、買ってきた石をど真ん中に置いたら、

「ウーム。えあーず・ろつく二、夕日ガ、シズーム。コリヤ、ゴツサ、わさーびネー……っておい！」

みたいになっちゃった、とほほほな庭も、彼の手にかかると、なんともはや、見事な、見事な、わびさびヤードに変化してしまう。きっと、彼のプロデュースした庭園を見たら、さすがの女米兵も恐れ多くて唾を吐こうとはしないだろう。イラクの大統領宮殿には吐いたけど。無礼なヤツらだなあ。

ただ、別に、

「伝説のハサミを使ってる」

とかそういう魔法的な要素はないですよ。これは、ファンタジー小説じゃない。単に鈴木のおっさんが近所の居酒屋でよっぱらった時に聞いた話だから。ただ、彼は酔うとデカイ口をたたくクセがあるので、半分うそだと思ってる。おっさんにオファーが多いのは、単に、長年の経験と勘からマジメに地道に仕事してるからじゃないかな？

どっちにしろ、庭園のことはよく分からない。おっさんがたまにシラフの時、

「あそこに見える松はネ……」

と、レクチャーしてくれるが、難しくて、すぐに眠ってしまう。そんな僕をおっさんは家まで送ってくれる。やさしい人だ。

しかし、そんな鈴木のおっさんでも、

「ダメだこりゃ！」

という庭があった。

SO！ タイトルにある通り。君はなかなか勘のいい読者だ。

それとも、ドラッグをやっているのか、想像力が豊かなのか、とにかく、つまり……

空中庭園である。

まず、鈴木は高所恐怖症。松の木くらいなら登れる。それは何度も何度も訓練した。でないと、仕事にならん。ただでさえ、ライバルの多い植木業界。油断はならぬ。ベテランになった今も、日々が訓練だ。クライアントが、

「スズさんは天才ですなあ。この見事な枝の切り方、まるで、宇宙の誕生を思わせる荘厳さ、そして叙情性？ 特に、石の配置が、宇宙の医師たる神の意志を、『イツシツシ……』とせせら笑つかのような現代の高度資本主義社会における少子高齢化に関するネオ・グローバリゼーションを民族自決理論の観点から風刺してて……」

と、しゃべり始めると、正直、逃げ出したくなるが、しかし、嬉しそうに語るお客さんの顔を見てると思わず、顔がほころぶ。

しかー……しーしー！

今回だけは……

なにしろ、空中庭園は、地上800メートル地点にある。かなり空気がうすい。それだけでなく、上下左右あらゆる方向に移動するので、たまらーん！

ポテドン13号が向かってきた時など、家屋内部にある自動防衛システムが作動し、時速120キロで逃げたらしい。怖いなあ。

「スズさん、精が出るねえ」

家の主人がお茶を持ってきた。

「あ、すんまへん」

鈴木が主人からお茶を受けとろうと手を差し出すと、急に足場が下降し、98度のお茶が顔面に！

「わちちちちち」

ポテドン13号は無事庭園の上を通過した。

しかし、あわてすぎてテンパったスズさんは、主人の薄い髪をチヨキチヨキチヨキ。

「こ、こらあ。スズさん。やめてくれえ」

ドーベルマンのヨシノブちゃんがわんわん吠えた。彼は、明らかに面白がっている。だって、シツポふってるもん。

それでも、空中庭園はものすごいスピードで、あっちへ行ったりこっちへ行ったりするのでまるで仕事にならない。

どうにも、家屋の一階、リビングの隣にあるコントロールルームでモニターを管理してる局員の山下君が、キムチ民主主義人民帝國と大ジャパン合衆国の開戦という情報を、K C I A 経由でキャッチし、恐怖のあまり、頭がバグってしまったらしいの。

ただ、そんなことは、鈴木たちには関係ない。ドーベルマンのヨシノブちゃんは、いつの間にか、東京の街（下に皇居が見えるから千代田区あたりと思われる）へ向かって落下中。わiiiiiiiiiiiiん。

空中庭師（改稿版）

スズさん（後書き）

つづく！

空中庭師（改稿版）

江戸男（前書き）

じつねびや...

エビ男

「ご主人！ これじゃいけねえ。何か足元を固定するものを！」
「あいよ、スズさん！」

主人があわてて家屋から持ってきたのは、ピンクのブラジャー。
ピンクのパンティ。ピンクのハイヒール。

「これでよし」

鈴木は、ブラとパンティで、杭と足を結びつけ、さあ木を切るぞ！
と燃えていたら、うしろで、主人が奥さんに殴られていた。

よく見りゃ、ご主人、あわてすぎて、ブラとパンティとハイヒールを身にまとい、女装してる。

うろたえて、わしゃどうすりゃいいんじゃないという表情してる困惑の主人を見て、

「欧米か！」

鈴木が叫ぶと、主人は、腰を振りながら、サンバのリズムで、
「南米じゃー！」

と切り返す。単に庭園の移動により揺れがひどかったし、あるいは、主人が、セクシーなパンティ（おそらく、奥さんのものである）をはいていたので、リオのカーニバルに見えただけかもしれない。

そのうち、奥さんがイライラしてきて、

「どつちでもええわアホ！」

と叫び、庭から飛び降りてしまった。

あわてて、あとを追いつ、飛び降りるご主人。鈴木はブラとパンティにしばらくたまたま、身動きが取れなかった……。

何だ、これは。混乱のあまり、坂口安吾の墮落論が一瞬頭を横切る。人は墮ちきれぬほど強くない……

しかし、それは関係ない。アレか。昔、妹の少女マンガ誌をこっそり読んだ時、載ってた政府広告。

《STOP 恋愛！

恋愛は、あなたにとって脳卒中の危険性を高めます。

疫学的な推計によると、恋愛中の恋人たちは脳卒中もそうだが心筋梗塞、鬱病あるいは恋愛依存症による統合失調症により死亡する危険性がسنズリストあるいは神風特別攻撃隊員に比べて約9・11倍高くなります。（詳細については、防衛省のホームページ・・・ええい、防衛省カンケーあらへんがな！）》

妹がボーイフレンドを家に連れてくるたびに心配していた中学生の頃の自分。隣の部屋から洩れる猛獣のおたけびに怯えながら少し漏らしてしまった幼き自分。履修もれ。文化祭の盛り上がり。盛り上がる幸子ちゃんの胸。学ラン、にきび面、中間テスト、エレキギター……。

やばい。いよいよ、走馬灯が見えてきた。こえー！

すでに、空中庭園の動きは予測不可能なスピードとグルーブになつており、コントロールルームの山下くんは泡を吹いて失神していた。鈴木は、ただやみくもに、ハサミを振り回している。ブラとパソティは杭から離れていた。

足場は自由になつたがすでに意識がない。あっちへ行つたり、こっちへ行つたり、空中庭園は時速130キロをオーバーしていた。それでも街へ落下せずに庭園に踏み留まつたのはひとえに庭に対する愛着のためであろう。無意識である。何か叫んでいるが意味不明だ。

松の木どこや、松の木どこや、松つちやあー！

ダウンタウンの松本人志が土の中からひよっこり頭を出した。おそらく、頭が混乱した鈴木の見た幻覚であろう。

「うわ。なんやこれボケえ。めっちゃめっちゃ揺れてるやんけ。は、吐きそー！」

松本もスズさんも目がくるくる回つた。ただ、スズさんはすでに意識不明なので、松本の汗だく坊主頭を踏んづけたりしている。

「こ、こらボケえ、てめ。なにさらしとんじゃ。痛い、痛い。蹴る

な、蹴るな。わしゃ、サッカーボールかいつ！　　って、うわおお
おおおお……」

空中庭園はただひたすらに無意味な回転を繰り返していた。

「おとーさん。ボク、タコ坊主が食べたいよう。取ってえ」

「くそ。速すぎて取られへん！」

「うえーん。タコ坊主食べたいよう、わーん！」

「チキシヨー！」

鈴木を意識からは、お客さんの声がどんどん遠ざかっていった……。

「嘘だろ、スズさん。そんなの、いくら酒の席だからって……」

僕は鈴木のおっさんに酒を注いだ。

忙しい居酒屋の10時過ぎくらい。みんな、ガヤガヤ楽しそう。

隣の座敷では、誰かの送別会だろうか。

「みんなー、エビ男先生押さえて。早く、早く」

「うおーやめてくれえ。うあわあ」

無理矢理飲まされていた。先生ってことは、みんなガツコの先生なのかな？　しかし、キレイな先生多いなあ。生徒になりてえ。ただ、女の人って酔うと怖えなあ。エビ男先生って先生、脇に腕まわされて次々飲まされとる。あ。吐いちゃった。松っちゃんみたい！　僕と鈴木のおっさんは、キレて暴れるエビ男先生の絶叫を無視して、カウンターでしんみり飲み続けた。

しかし、おっさんは一杯飲むと、あとは、ずっと下を向いてどんより落ち込んでいた。ご主人の奥さんと不倫していたという噂は本当だったのだろうか……。

気のせいかな、少し目のあたりが光ってる気がした。

「ううう、山下くううん……」

そっちかい！（了）

空中庭師（改稿版）

工七男（後書き）

ちゃんちゃん！

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1675c/>

空中庭師（改稿版）

2009年3月24日09時24分発行